

経営学部地域活性化研究会の 取り組み

経営学部教授 地域活性化研究会代表 伊藤 宣生

震災直後に地域活性化研究会は何をしたか (平成23年度)

平成23年2月末に石巻専修大学経営学部地域活性化研究会を設立した。メンバーは経営学部の教員有志15名であった。地域活性化研究会を設立した目的は、つぎのとおりである。

石巻専修大学経営学部には「地域活性化」に関する問題を研究する教員、「地域活性化」の活動等に関与する教員、あるいは「地域活性化」に関心を持つ教員が多数在籍している。このため、経営学部における教育、研究、地域貢献の特徴を「地域活性化」というキーワードで強調できるようにすること、これによって学外に対する経営学部のアピール力を向上させることが研究課題であった。

しかしながら、研究会を設立した直後の3月11日に東日本大震災が発生し、石巻地域は津波による甚大なる災害を被った。

震災直後の大混乱を経て、地域活性化研究会は東日本大震災から2ヵ月後の5月12日に再開された。しかし、甚大なる被害を目の当たりにして、もはや経営学部を外部にアピールするという目的より、地域の復旧・復興に寄与・貢献することを研究および実践の課題とすべきことがメンバー間において合意された。メンバーは、それぞれの専門性を活かして、つぎのようなプロジェクトを立ち上げ、それぞれに復旧・復興への寄与・貢献をいかにすべきかを検討し、あるいは実践的な支援活動をスタートさせた。

表1 震災後に立ち上げたプロジェクト

- ・まちづくり懇話会の企画・開催
- ・産学官連携による水産業復興ソリューションの開発
- ・東日本大震災の被災地石巻圏における復興初期の観光の可能性
- ・仮設住宅に居住する買い物弱者に対する地域商店街・事業者のサービス創出
- ・石巻地区被災体験アーカイブ化と復興まちづくり
- ・石巻ボランティア情報センターの設立・運営による石巻市復興支援
- ・3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の制作

*これらは文部科学省の『大学等における地域復興のためのセンタ－的機能整備事業(平成23年～平成27年)』に採択された事業の一部である。

震災から1年、地域活性化研究会は何をしたか (平成24年度)

石巻専修大学における「復興共生プロジェクト」を推進するために文部科学省の補助事業「大学等における地域復興のためのセンタ－的機能整備事業」に対する文部科学省からの補助金を申請するにおいて、地域活性化研究会は復興支援活動を地域連携窓口と4つのワーキンググループ(産業支援WG、生活支援WG、教育WG)からなる組織へと再編した。その概要と平成24年度の活動は次のとおりである。

地域連携窓口

I. 概要

地域活性化研究会のスタッフ業務全般を行う。産業支援WG、生活支援WG、教育WGの事務管理、および各WGの補助業務を行う。また、それらの活動成果を広く社会に発信する。

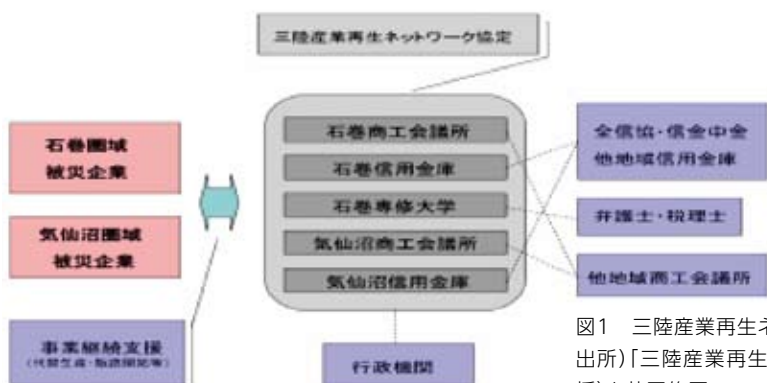


図1 三陸産業再生ネットワーク構想
出所)「三陸産業再生ネットワーク」調印式の配布資料(作成者 石原慎士准教授)を若干修正

II. 活動実績

地域連携窓口を設置して常勤スタッフを雇用した。スタッフに対するインストラクション後、各WGの補助業務、ならびに、被災地の各機関との連携構築を図った。その成果として、石巻専修大学に「学生パートナー組織」を結成して学生の社会貢献体制を確立した。

5月には「三陸産業再生ネットワーク」の構想を立ち上げた(図1)。石巻と気仙沼両圏域の機関-石巻商工会議所、気仙沼商工会議所(石巻信用金庫、気仙沼信用金庫、石巻専修大学)が連携を図りながら、両圏域の被災中小企業を支援するというスキームである。そして構想から2ヶ月後の7月13日、「三陸産業再生ネットワーク」の調印式が石巻専修大学で行われ、地域連携による被災企業の支援活動が本格的にスタートした。この「三陸産業再生ネットワーク」のもと、2月には「復興ブランドフォーラム」が開催され、気仙沼地域の水産業復興について議論された。

また3月には、「これからどうなる? 石巻の中心市街地」と題する「まちづくり懇話会」が開催され、今後の中心市街地問題についての情報提供と意見交換がなされた(図2)。

表2 「三陸産業再生ネットワーク」の事業

事業内容	
・代替生産に係わる事業	・放射線風評被害に係わる事業
・市場調査および販路開拓に係わる事業	・雇用対策に係わる事業
・同業種および異業種間連携に係わる事業	・資金調達に係わる事業
・製品の価値形成に係わる事業	・将来構想に係わる事業
・新商品の開発に係わる事業	・人材育成/後継者育成に係わる事業

出所)「三陸産業再生ネットワーク」調印式の配布資料(作成者 石原慎士准教授)を若干修正

- 地域連携窓口の行った業務を以下に示す。
- *連携窓口の開設準備、窓口担当要員に対するインストラクション：4月～5月
 - *連携窓口の開設：6月
 - *連携窓口・リエゾン業務開始：6月～
 - *学生パートナーの組織化：7月～
 - *「復興ブランドフォーラム」の実施(石巻・気仙沼圏域の被災企業対象として)：2月
 - *「まちづくり懇話会」の実施(石巻中心市街地構想をテーマとして)：3月



図2 「まちづくり懇話会」ポスター

1 大学の動き
平成23年4月～

2 震災に関する
研究活動

3 大学施設の地域
催事への提供

4 震災の影響に関す
る全学調査結果

5 防災・減災のための
備蓄品調達状況

6 震災に関する
「インテリ」による紹介

7 震災2年目における
委員会等の活動と
本学の対応

8 阪神・東海に学ぶ

9 学内に結成された
サークルの活動

震災に関する研究活動

産業WG

I. 概要

本WGの目的は地域産業(とくに水産業・水産加工業)の復興に向け、被災地の実情に即した産業復興ソリューションを開発することである。産学金連携体制の下、被災企業のニーズに基づく支援活動を実践的に取り組む。

II. 活動実績

被災事業者復興支援説明会 4月27日

気仙沼魚市場会議室において、被災事業者に対する復興支援説明会・相談会を開催した。相談会では、代替生産に関する相談、販路開拓に関する相談が寄せられ、5月から支援業務に着手した。

三陸産業再生ネットワーク連携協定調印式 7月13日

気仙沼商工会議所、気仙沼信用金庫、石巻商工会議所、石巻信用金庫とともに三陸産業再生ネットワークを設立。産学金連携体制による被災企業支援活動に着手した。

希望の魚プロジェクト2012「みやぎの水産・復興ブランドフェア」① 8月10～12日

希望の魚プロジェクト2012「みやぎの水産・復興ブランドフェア」② 9月7～9日

群馬県のファームドゥ株式会社が経営する「食の駅ぐんま」前橋店、高崎店において、宮城県の鮮魚や被災企業製品を販売する催事を開催した。同催事には、石巻専修大学の学生たちも販売活動に携わった。

東大阪市第8回百円笑店街 東北物産展 11月10日

大阪府東大阪市の商店街、大阪商業大学と連携しながら、被災企業の製品を販売するイベントを開催した(図3)。

テレビ愛知(テレビ東京系)テレショップを利用した東北物産東海地区プロモートプロジェクト 1月

テレビ愛知と連携しながら、被災企業の製品を紹介、販売するテレビショップ番組の撮影に着手。平成25年3



図3 東大阪市 第8回百円笑店街での販売支援の様子

月に放映予定。石巻市の被災企業2社の商品を取り上げる。

宮城県軽自動車&二輪車フェア

2月9,10日

夢メッセみやぎにおいて、石巻市、気仙沼市の被災企業製品を販売する催事を開催した。三陸産業再生ネットワークとの連携によって被災企業12社が出展した。気仙沼・石巻地域企業を対象とした被災状況調査 2月15～3月15日

【主催】三陸産業再生ネットワーク(気仙沼商工会議所・石巻商工会議所・気仙沼信用金庫・石巻信用金庫・石巻専修大学)

復興ブランドフォーラム

日時 平成25年2月20日(水) 13:30～15:50
場所 気仙沼魚市場 3階会議室
参加申込 2月15日(金)までに事前参加申込受付 ※定員150名
参加 無料

目的:本フォーラムは震災後の企業再生に取り組む、水産加工業の支援を目的として開催いたします。今後、消費者に支持される地域商品を創造するために、どのようにブランド化を図るべきかを模索していきます。

プログラム

13:00	開場
13:30～13:35	開会挨拶
13:35～14:20	講演 一般社団法人地域力活性化センター プロジェクトコーディネーター 安江 達生氏 テーマ『食にこだわる消費者が求めているものは何か』
14:20～14:50	報告 石巻専修大学 理工学部 生物生産工学科 准教授 鈴木 英樹 『気仙沼産カツオの分析から見てきた産地の特徴』
14:50～15:00	休憩
15:00～15:45	パネルディスカッション テーマ『気仙沼の地域ブランドを再構築するためには』 ○パネリスト: ・一般社団法人地域力活性化センター プロジェクトコーディネーター 安江 達生氏 ・気仙沼商工会議所 副会頭 菅原 昭彦氏 ・海産物ミツヨリ 代表取締役 岩瀬 光男氏 ・海産物ミツヨリ 代表取締役 高橋 好伸氏 ・石巻専修大学 理工学部 生物生産工学科 准教授 鈴木 英樹 ○コーディネーター: 石巻専修大学 経営学部 経営学科 准教授 市 東樹
15:45～15:50	閉会挨拶

参加申込み 0225-22-7713(内線2268) Fax:0225-22-7746 E-Mail:sato@ishihara-lab.org

図4 「復興ブランドフォーラム」のポスター



図5 「復興ブランドフォーラム」の様子

三陸産業再生ネットワークと連携しながら、被災企業の被災・復興状況を調査。平成25年3月に調査票を回収し、集計する予定。

復興ブランドフォーラム 2月20日

気仙沼魚市場会議室において、被災地の産業復興の方策を議論するフォーラムを開催。ゲストによる基調講演に加え、カツオの成分分析に関する報告、パネルディスカッションを行った(図4,5)。

◎三陸産業再生ネットワーク運営会議

三陸産業再生ネットワークの運営会議を下記の日程のとおり開催した。

- *設立準備検討会(気仙沼商工会議所):6月1日
- *第1回運営会議(気仙沼商工会議所):8月20日
- *第2回運営会議(気仙沼信用金庫):9月18日
- *第3回運営会議(石巻信用金庫):10月19日
- *第4回運営会議(気仙沼商工会議所):12月12日
- *第5回運営会議(石巻専修大学):2月6日

生活WG

I. 概要

本WGの目的は震災で疲弊した地域の生活と仕事を再生するために、被災者、自治体、NPO、大学、地域外の支援者とのネットワークづくりをとおして、新しい社会関係資本を構築することである。そのために、被災者の情報収集と発信、将来を担う子どものケア、生活と産業を再生させるための新規開業支援を行う。このWG

の特徴は、学生が地域との連携を担う主体となっていることである。WGの事業に参加する学生一人一人が地域の人たちとネットワークを構築することによって、その集合体である大学が震災復興の人材供給の拠点になることを意識している。地域との連携という実践的・主体的な行動をとおして、学生の「社会人基礎力の育成」など教育面での効果も上がっている。

II. 活動実績

石巻市南境・開成地区仮設住宅を対象に生活実態調査(8月)を行い(図6)、「仕事」「移動」「子ども」「コミュニティ」の支援を行った。「仕事」支援では、学生たちの力によって、地元企業と協力し(20名以上の住民)内職の斡旋を行った。また、授業をとおして学生たちに企業家教育を行った。

「移動」支援では、日本カーシェアリング協会と連携し、半年間で周辺の仮設住宅の住民を対象に延べ100人の送迎を行った。

「子ども」支援では、学生主体で仮設住宅の集会場で仮設住宅の子どもの対象に遊び場づくり、居場所づくりの活動をしてきた。現在では、子どもが安全に遊べる場所が少ないことから、石巻全域の子どもの対象に、大学の敷地をつかった遊び場づくり「プレイパーク」を1か月に1回開催している。

その他、開成・南境地区で活動しているボランティアの連絡会議「開成ネットワーク会議」へ参加し、各団体と連携して生活支援活動を行っている。また、同会議の参加団体と共同で、「震災後の生活と復興に関するアンケート調査」(8月)も実施した。

平成24年度には新たな活動として、①日本家政学会による長期の被災地生活調査プロジェクトへの参加、②被災地支援型地域社会雇用創造事業の支援団体と石巻地区協議会を結成し、地域の起業支援、③地域団体の主催するプレイパークへの協力、「こどものまじいしのまき」開催の実行委員に参加、④神戸学院大学のボランティアと「石巻市南境地区周辺マップ」の制作、

1 大学の動き
平成23年4月～2 震災に関する
研究活動3 大学施設の地域
催事への提供4 震災の影響に関す
る全学調査結果5 防災・減災のための
備蓄品調達状況6 震災に関する
ビューリ組みインタ
ビューによる紹介7 震災2年目における
委員会等の活動と
本学の対応

8 阪神・東海に学ぶ

9 学内に結成された
ボランティアサークルの活動

震災に関する研究活動

「スマイル運動会」の実施など、外部との連携を積極的に行った。

*ふるさと復興協議会と「観桜会」を共催：4月

*子どものための石巻市民会議「石巻プレイパーク」参加：5月

*石巻復興支援ネットワーク・プレイパークへの参加：5月

*復興支援型地域社会雇用創造事業石巻地区協議会「合同説明会」の実施：5月、6月

*復興支援型地域社会雇用創造事業「東北未来創造イニシアティブ」（東北ニュービジネス協議会主催）石巻サテライト起業家コンペの実施：6月

*TBCまつりで復興商品の販売：7月

*にこにこプレイパークの開催（クリスマス会等）：7月、8月、10月、11月、12月、2月

*「震災後の生活と復興に関するアンケート調査」の実施：8月

*仮設住宅で足湯カフェの実施：8月

*龍谷大学生ボランティアとの交流会：9月

*こどものまちいしのまきへの協力：10月

*石鳳祭にて復興商品の販売：10月

*神戸学院大、石巻スポーツ振興サポートセンターとスマイル運動会を共催：10月

*復興支援型地域社会雇用創造事業石巻地区協議会「復興起業家交流会」実施：11月



図6 石巻市南境・開成地区仮設住宅での生活実態調査

*「震災後の生活と復興に関するアンケート調査」結果報告会：12月

教育WG

I. 概要

本WGでは、防災教育と中小企業再生支援を行っている。その概要を以下に示す。

①石巻圏における東日本大震災の教訓を活かした防災知識の普及に資するため、石巻市民及び防災専門家と連携し、防災セミナーを実施することにより防災研修受け入れのための教育活動を行う。

②震災後における石巻地域の中小企業再生を支援するため、企業会計教育および情報教育を行う。方法としては、コンサルティング会社および各種団体、地

表3 教育WG内の防災教育班が行った防災視察・研修の一例

日時	団体名	主要視察地	参加人数(含案内)
9月8日(土)	NPO法人現代の理論・社会フォーラム	石巻市街地(日和山他)、石巻専修大学	24
9月15日(土)	山形大学等関係者	石巻専修大学、石巻市中心市街地	18
10月21日(日)	日本計画行政学会関係者	大川小ー雄勝町ー女川町ー石巻市門脇地区	7
11月14日(水)	石巻専修大学「地場産業国際化論」受講生	セイホク株式会社石巻総合事務所	26
11月18日(日)	東北大学留学生・石巻専修大学留学生・石巻専修大学教員・旅行業者	大川小ー雄勝町ー女川町ー石巻市門脇地区	23
3月10日(日)	東北学院中学高校生徒・教員	石巻専修大学ー小湊浜ー女川町	15
3月24日(日)	日本マネジメント学会関係者	魚町・石巻漁港	40

域産業ネットワーク等の協力を得て、BCPセミナーを開催し、中小企業の従業員をはじめとする広く一般の方に企業再生の一助となることを目的として行っている。

II. 活動実績

①本補助事業の目的は、東日本大震災の教訓を活かした防災知識の普及を達成するために、地域視察の実施、及び研修参加者アンケート調査(図7)の実施により、「石巻市民の経験と訪問者の反応」に對

<資料>
For foreign students November 18, 2012

Disaster Preparation Study Program
Yasushi MARUOKA
Professor, Ishinomaki Senshu University

Itinerary

1. Kamagai district
2. Ogatsu district
3. Onagawa town
4. Sakana district
5. Kadonowaki district
6. Hiyori mountain

II Contents

1. Self introductions of guides
2. Theme for today: difficulties of evacuation
3. My experiences on 3.11, 2011
4. The roles of Ishinomaki Senshu university in recovery and reconstruction
5. Features of the tsunami disaster
6. Difficulties of "running to a higher place"
7. Merits/demerits of evacuation by car
8. "O/HA/SHI/MO" or "O/KA/SHI/MO":
Don't push. Don't run. Don't speak. Don't go back.
9. Fumio YAMASHITA "Everyone has to look after himself"
10. "Miracle in Kamaishi City" Toshitaka KATADA (Professor, Gunma University)
"Don't trust presuppositions" "Do your best" "Be the first evacuee"
11. Don't trust your personal experiences too much
12. You must have a historical perspective
13. Repeated mistakes: "Normalcy bias"

Note: Today's Disaster Preparation Study is financed by the reinforcement program of reconstruction and symbiosis projects of central functions in Ishinomaki Senshu University of 2012 (working group for the area reactivation study team)

<資料>
For foreign students November 18, 2012

Questionnaire of Disaster Preparation Study in Ishinomaki
On you
F1Sex a Male b Female

F2Age a Under9, b 10-19, c 20-21, d 30-39, e 40-49, f 50-59, g 60-69, h 70 or more

F3Address Prefecture[]
Country name you are from[]

On today's study

Q1 Do you think today's study was appropriate? <appropriateness>
a) agree strongly b) agree c) don't agree d) don't agree at all
concrete reason if you have one[]

Q2 Do you think you can improve your sense of disaster preparation after today?
<effectiveness>
a) agree strongly b) agree c) don't agree d) don't agree at all
concrete reason if you have one[]

Q3 Do you think we used the available time well? <efficiency>
a) agree strongly b) agree c) don't agree d) don't agree at all
concrete reason if you have one[]

Q4 Would you recommend others to take part in this disaster preparation study?
<impact>
a) agree strongly b) agree c) don't agree d) don't agree at all
concrete reason if you have one[]

Q5 Would you like to take part in another similar disaster preparation study?
<sustainability>
a) agree strongly b) agree c) don't agree d) don't agree at all
concrete reason if you have one[]

Q6 Please write your suggestions to improve this disaster preparation study.
(You can also use the reverse side)

Thank you very much for your cooperation.

図7

防災アンケート

する情報の収集と整理を図った。これらの活動の結果、市民の地域視察案内のスキル向上に成果があった(表3)。

②中小企業再生の支援のため、メルコ学術振興財団の支援のもと11月24日～25日の2日間にわたり、石巻地域の中小企業者を対象とする管理会計セミナー(BCPおよびSWOT分析等)を開催し、多くの参加者にセミナーの講演内容を周知することができた。その際、被災企業の経営者たちからは実践的な質問が多く寄せられた(図8)。

*社会起業家支援 (社会起業家育成を目的とする中間支援組織の支援を実施): 4月～3月

*中小企業のためのBCP策定セミナーを実施: 11月～3月

*防災研修: 東北学院中学高校小渕支援研修、山形県内高等学校石巻防災研修: 3月

*復興研修: 公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)(石巻市の中小事業経営者対象)

*事業自己評価: 各事業の評価アンケート入力作業

【主催】メルコ学術振興財団
【共催】三陸産業再生ネットワーク(気仙沼商工会議所・石巻商工会議所・気仙沼信用金庫・石巻信用金庫・石巻専修大学)
【後援】石巻専修大学地域活性化研究会【後援】石巻法人会

中小企業のための管理会計セミナー

～被災地中小企業の再生と復興をめざして～

日時 第1回セミナー 2012年11月24日(土) 18時30分～16時30分
第2回セミナー 2012年11月25日(日) 18時30分～16時30分

場所 石巻専修大学 4号館 4101 教室 (両日)

<プログラム>

11月24日(土) 開場 18:00

13:30 - 13:40 開場挨拶 メルコ学術振興財団代表理事 上總康行氏
(京都大学名誉教授・立命館APU客員教授)

13:40 - 14:30 会場挨拶 石巻専修大学経営学部学部長 教授 相良勝利氏
基調講演 「将来のために過去をふり返し、経験を蓄積する」(50分)
佐々木郁子氏(東北学院大学経営学部経営学科教授)

14:50 - 16:10 講演 「企業再生戦略-戦略マップを活用した戦略策定-」(講演60分・質疑応答20分)
長谷部光茂氏(アーセプト税理士法人代表社員)

11月25日(日) 開場 18:00

13:30 - 14:50 講演 「決算書を経営のための資料につくりかえる」(講演60分・質疑応答20分)
田村真介氏(石巻専修大学経営学部経営学科准教授)

15:10 - 16:30 講演 「管理会計研究と実務」(講演60分・質疑応答20分)
青木雅明氏(東北大学大学院経済学研究科東北大学会計大学院院長教授)

閉 催 メルコ学術振興財団代表理事 上總康行氏
(京都大学名誉教授・立命館APU客員教授)

総合司会 石巻専修大学経営学部経営学科教授 岡野知子氏

図8 中小企業のための管理会計セミナー

1 大学の動き
平成23年4月～

2 震災に関する
研究活動

3 大学施設の地域
催事への提供

4 震災の影響に関す
る全学調査結果

5 防災・減災のための
備蓄品調達状況

6 震災に関する
取り組み
「ボランティア」による紹介

7 震災2年目における
委員会等の活動と
本学の対応

8 阪神・東海に学ぶ

9 学内に結成された
ボランティアの活動